

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	ヘーゲル哲学の性差論に関する博士論文の完成と書籍化に向けて
氏名 Name	岡崎 佑香
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	文学研究科・思想文化学専攻・博士後期課程三年
渡航国 Country	ドイツ
渡航日程 Travel schedule	2022年10月1日～2023年1月21日、2023年3月22日～2023年3月31日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本計画の渡航目的は、十九世紀ドイツの哲学者G.W.Fヘーゲル（1770-1831）の「性差」論について、その思想的背景、および同時代の言説空間に占める位置を解明することである。報告者は二〇二一年一〇月から二〇二二年九月の一年間、「京都大学大学院交流協定に基づく派遣留学プログラム」により、ドイツ・ベルリン自由大学に留学した。さらに、大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金を使用して、二〇二二年一〇月一日から二〇二三年一月二日、および二〇二三年三月二日から二〇二三年三月三日まで、引き続きドイツ・ベルリンを拠点に本研究計画を遂行する。

到達目標は以下の二点である。第一に、二〇二二年十二月までに本研究の成果を総括した博士論文を京都大学大学院文学研究科に提出することであり、第二に、二〇二三年三月までに博士論文を英語翻訳版の第一校を完成させることである。

上記目的のため、渡航期間中に以下の研究活動を実施する。

1) 資料調査

現時点で博士論文に必要な二次文献は一通り調査済みであるが、博論完成までは引き続きベルリン自由大学附属図書館、ベルリン国立図書館で必要な二次文献を補完する。

2) 研究会、講演、ワークショップ等の参加

報告者の現在および今後の研究活動に関連が深い研究会・講演・ワークショップ等に参加する。

成果 Outcome

上記の図書館で博士論文に必要な資料を多数収集することができた。世界水準の研究成果を上げるためには、先行研究における自身の研究の位置付けを適切に示す必要があるが、京都大学附属図書館を含む国内の学術機関には関連する二次文献がほぼ全く所蔵されていない。ゆえに、今回の研究渡航は報告者の現在の研究活動にとって不可欠であり、有意義なものであった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で研究に遅れが生じ、上記二点の目標を達成することができなかった。

とはいえ、二〇二二年一二月一日から一四日までの三日間、スロベニア・リュブリャナ大学で開催された国際会議「Hegel, Women and Feminism: The Logic and Politics of Sexual Difference」に招致され、依頼講演を行なったことは、本渡航計画の大きな成果である。報告者は本国際会議で「Sexual Difference in Hegel's Logic」

と題する講演を行なった。本国際会議は、リュブリャナ大学のZdravko Kobe教授、ベルリン自由大学Dina Emundts教授、パドヴァ大学のLuca Illetterati教授という世界的に著名なヘーゲル哲学研究者が主催し、報告者以外にカリフォルニア大学バークレー校、ウトレヒト大学などに所属する教授のほか、ヨーロッパや南米の大学に所属するポスドク、博士課程在籍の研究者が講演をし、活発な意見交換を行なった。報告者は、講演原稿（英語）を会議での議論に基づきブラッシュアップして、博士論文の第三章（日本語）として完成させた。

今後の展望 Prospects for the future

二〇二三年四月以降も引き続きドイツを拠点に研究を続け、二〇二三年度中に博士論文を完成させたのち、書籍化の準備を進めたいと考えている。また、博論完成後は、本渡航により得られた研究ネットワークを活かして、スロベニア（リュブリャナ大学）やイギリス（ランカスター大学）に研究拠点をうつし、ポスドク研究プロジェクト「ドイツ古典哲学における交差性——「人種」、性差、セクシュアリティ」に従事することを計画している。また、上記の国際会議のプロシーディングに報告者の論文が掲載されることが決定している。ゆえに、本渡航計画は、報告者の今後の研究活動やキャリア形成にとって有意義であった。